（七日夕刊）

磐城新聞

（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和二年十月一日第八日　磐城新聞　（火曜日）　第二千八十六號　（一）

休刊　大祭第一　第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社
電話五六四番

（物語詩）

私

カシマ村　小泉貢

作家志望の炬火を燬して
土臭い田舎を飛び出した男
があつたのです。
そしてその男は日光に姿
をみせました。その時男は
博士夫人と稱する女と一緒
でした。その婦人は汽車中
で知り合つたとか。
婦人はその男に銀の腕巻
を贈物し、そうして男の保
護者になることを誓ひまし
た。
鋭き爪を匿した妖婦とも
知らで、ジエトルウーマン
こゝろと信じきつてゐたそ
の男の有頂天にならない筈
はなかつたのです。
だが、間もなくその男は
ほうほう體で日光を逃れな
ければならなくなつたので
す。ジエトルウーマンの假
面を覆つた妖婦の、せゝら
笑つたことは云ふ迄もあり
ません。
それからその男の姿はぴ
よつこり東京にあらはれま
した。絣のよれよれ着物に
朴歯ッチビ下駄を履いて書
物を漁るに神保町や九假坂
下の古本屋をうろついてゐ
た男があつたでせう、その
中でも目だつてゐた粗末な男
が、それ、それ、それが、
その男だつたのです。
その男は宇都宮にもゐた粗
末な姿をみせました。新聞
社の植字工場の汚濁な空氣
の游澱を吸つて蒼ン臭い顔
で働いてゐたのがその男だ
つたのです。
それからその男は、若い
評論家に拾はれ、那須溫泉
に、ぽつかんとふせました
が、間もなくどつかへ行
つてしまつたのです。
その男は宇都宮の耀山の、
發こしき型看板も、原稿だ
けはやはり書いてゐました。
そしてまたどつかへ行
つてしまひました。
その男は郷に歸つてゐま
した。
男は、薄赧い顔をして、
郷の土に申しました
「僕は、お前の香がなつ
かしくなつたので歸つてき
たのだ」と。
郷の土が嗤つたことはい
ふまでもありません。
それからその男は、赤門
出の學士様に拾はれて、乏
しい腦も、だん〳〵充たさ
れていつたのです。
先生が學士様だから、拾
はれたその男だつてだん
〳〵伸びて行かない筈はあ
りませんでした。
書き溜めた稿を纏めて、
若干の金を調達して著を刊
行したのが、學士様の邸に
ゐたその男だつたのです。
（それが私だつたことを
末尾に小さく附記しませ
うね）

磐新顧問

（照合を歓迎す）

（問）小生僞婦人持腕時計價格二百圓のものを機械修理のため時計商に修理依頼せしところ約束の期限經過しても返却せずむときは却て差跌すべし▲最後に修理せずとも、その儘にしてもよろしいと返却を迫れるも最初より三ヶ月經過の今日に至るも尚は返しません。詐欺罪として告訴しがたき所存なるも訴へ得ませうか

（保坂生）

（答）修理を依頼されそれを無斷で横領すれば詐欺でなく横領罪として告訴が出來ます。

（問）小生の次男の妻が肺病に罹つて居りますので次男の爲めを思ひ別居させようとすゝめましたが嫁の里方で離婚も同然だと言つて承知して呉れません。別居させることが不可能　せらか（柴田）

（答）妻君の意志如何によつて定まります。若し妻君が別居を拒むなれば別居は不可能ですが、承知すれば、たとへ里親が何と言はふとも必要あつての別居ですから必ず出來ます。それには妻君に事情を打明けて得心せしめ、同意を促した方がよろしいでせう。

（問）二十五歳の人妻ですが去る九月末出産し出産も輕く經過も普通でございましたが本月末月經を見ました。人の話ではそんなに早く月經を見るのはたわいと申しますが出血ではないでせうか

（大久保）

（答）人によつては翌月等の意の僞だ此の上は命惜
々經を見るといふこともあ
りますが、そんなに早く出
血したとすれば或は月經で
なく出血だらうと思はれま
す。産後手當が惡かつたり
無理をなさるとよく斯樣な
出血を見るものです。出血
の際は身體を安靜にし下腹
部に冷濕布をしてごらんな
さい。醫師には是非診察を
お受になるように進めいた
します。

※……明治四十一年　舊十月　新
※……吉の凶　曆四月八日　曆十日

▲一白　急速なる發展を望む
▲二黑　隆運の日にして何事にもよし口舌注意
▲三碧　奇利はなくとも尋常に働け
ば相當の伸びあり
▲四綠　人の力を借らず熱心に己が
分限を以て勵め
▲五黃　之しきも一時のこと働けば大
に裕かなるべし
▲六白　飲食と進退とを愼み中を守り
偏らざるが吉
▲七赤　抗すれば抗するほど逆運に見舞
はるべき日
▲八白　實力を以てすることは難事と見へ
てもとほる
▲九紫　目前の小利にあせらず永遠の志を
等てるに吉

講談

血で血を洗ふ

(180)

高橋掬太郎創作
布施秀八郎揮毫

昌康の皮肉

清之助はその身が成昌の子であることを早くも知つた（もう自分の素性は判つたのだ自分を成昌の子であることを知つて此のやうな卑劣なやり方だろう何んと云ふ卑怯なやり方だろう）

と血氣の清之助は昌康の卑劣なやり方を思ふさま罵つてやりたかつた

（此の上に母上をこれへ呼ばうと云ふ母上を對面させてたいて何をしやうとするのであろう）

不安の雲が眞暗になるほど胸にまき起つたが

（いや見破られた上は仕方がない俎上の魚も同樣だぞ）

のやうに料理されやうと彼

『その清之助と云ふのは即ち此處にゐる若君ぢゃ——』

昌康は扇子で示した

『ねッあの……これが清左工門殿の一子清之助とやら

『では先主君成昌公の御面影に描者が似たと仰せられまするか、それは始めて聞きました假りにも智勇天下に聞へた天晴の成昌公に似たとは身にあまる幸せに存じまする』

清之助は少しも怖れ憶する色なく却て逆襲的に平然と云つた

『如何にも其方は幸せ者ぢやなゝ清左工門の子に生れたのぢ殘念、或は生れる途中で取りちがへられたかも知れぬ』

と昌康は笑つた、其處へ深雪の方かつゝましやかな姿で現れた

『我が君何んぞ御用でございますか』

深雪の方は昌康の側へ坐つて手を支へた、その眼前に平伏して居る一人の若侍——それが眞實の我が子であらうとは深雪の方は心づく筈はなかつた

『おゝ御苦勞であつた』

と昌康はいたわるやうに云つた

『そちは〻神部清左工門に似てゐるぞやら』

清之助と云ふ一子のあつたことは存じてゐるであろうと何氣ないやうに云つた

『は、はい——』

と答へたが意外のことを問はれたので深雪の方はハッと心に驚いたのであつた

『存じておるかそうであらう忘れてはならぬ筈ぢや』

心を探らうとするのであるから昌康の云ふ事は對手の心を抉る樣に極めて皮肉であつた

『その清之助と云ふのは即ち此處にゐる若君ぢゃ——』

昌康は扇子で示した

『ねッあの……これが清左工門殿の一子清之助とやら

『いや何も驚く事はないたゞ似てゐると申すだけであるがどうぢや左樣には思はぬか……

どしろ〳〵と深雪の方の顏色を讀んで

『それにどうやら其方にも似てゐるところがあるやうな氣がする、あの鼻筋のあたり矢張り緣は爭はれぬものぢやな』

昌康は何處迄も皮肉にいふのであつた

廣告

平町南町
大和田病院
電話一七〇番

御需めの方は
平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

本年ノ流行
シヨール　澤山荷着
◇格安品豊富ニ店内ヘ陳列シマシタ
◇製産地ヨリ直接安價ニ仕入レマシタカラ御覽下サイ
カクニ石鹸本舗
ニッルヤ
平四電百四十

皇漢藥主劑
滋養藥　リウマチ湯
てがるになほせ
神經痛リウマチ
さんき腰足の痛
鍼や灸溫泉つけ藥で治らぬ人
いかなる慢性にも効く
人が十人性に合つて喜ぶ
全快せしもの數知れず、一日も早く
服用せられよ
一定價　一回、二回、四圓
代理店　山野邊藥局
平町五丁目角

平町田町
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
電話五一三番
内科、小兒科、
外科、花柳病科、
耳鼻咽喉科、
レントゲン科、

深キ經驗ト
正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト
優秀ナル技巧ニ依リ
多產簾賣
益々聲價漲ル
萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗証明
鐵道省
福島縣廳
栃木縣廳
青森縣廳
指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

外科、耳鼻咽喉科
内科、泌尿器科
X光線科
外科
赤心堂病院
平町字田町
電話四七五

秋！
活躍のシーズン來る
勞働勤務に運動に
指示正確なる
時計を
蓄音器とレコードの
御用は……
定評ある當店へ
TRADE MARK NIPPON OPHONE
平町四丁目
會田時計店
電話三六三

釀造元
清世界
石城小名濱町
銘酒　清水屋
各炭鑛御用達　小野晋平
電話六番

蜂ブドー酒
讃禮康健
人生の最大な歡喜は　一家揃つて健康なることであります　美はしき皮膚の精彩と　魅力ある健康と美とを創造する蜂ブドー酒の食前常用は　人間生活をヨリ光明へ　ヨリ幸福へと導く唯一の捷徑であります……
【蜂印葡萄酒】といふ名稱を　皆樣のお眼めにより　且つは時勢の推移に鑑み　今後【蜂ブドー酒】と改めます　どうぞ　旧變さ御愛顧を願ひます
株式會社　近藤利兵衛商店
大阪

不良の産業組合は容赦なく整理

斯くて農村振興に郡組合監視嚴重

石城郡下の産業組合は現在を設ける方針を立て取敢ず二十五組あり江名町番外組現在二十五組合中優良、良合九十七高目　出資額一万　不良三ツに分けて嚴重監督頭に出資總額七十七萬圓餘にたよんでゐるが既設二十五組合中は出資額二千五組合中は出資額千圓以下の不良組合なし不良のものには容赦方面のみならず農村振興に充てる事になしてたn販賣利用方面に至つては昨年設置の石城販賣利用組合をのぞくの外は見るべきものがなく繭價の暴落について米價の下落し農村の金融は極度に逼迫してゐるこの際産業組合の普及奬勵は最も農村振興策として重要な事業として縣は一町村の組合主義を宣傳し石城郡内に三十四組合等に關して協議した

販賣利用組合役員會

低資借入其他

石城販賣利用組合では今七日午前十時から農郡役所内に於て役員會を召集し低利資金の借入と業成績報告、並に來年度からの事業方針等に關して協議した

工場内に本部を置き頑張る爭議團

會社立退命令を發す

長び く白煉瓦爭議

石城郡湯本町品川白煉瓦會社湯本工場の勞働爭議は何等解決の具体案に望まれない現狀にあり爭議團では合法的

團結權の威力を

つて會社當局の反省を促すべく三日來白煉瓦從業員株主一同、社員有志の名にかて檄文を飛ばしていたなは現在就業せる者は釜場運輸製造を合して平均約三十名他百六十餘名は罷業して中六十餘名は同工場武道で夕場に立こもつているに對し會社當局では四日正午を期し人夫　使つて同場の

立退命令

を發するはずであつたが平署ではかへつて爭議を惡化せしめるものと見し中止せしめた

稲田を荒す左官辰之輔

平署に捕はる

昨年秋　農繁期を當て込んで禪學會の今月　平町

禪學會の今月

平町の昨今は川前の紅葉狩樓上で開いてゐたが今月は講師栗山老師の都合により休會のことになつた

磐中恒例の七哩半競走

きのう決行

縣立磐城中學校の恒例に依る平町外一週七哩半マラソン競爭は既報の如く昨六日午前八時から決行されたが秋冷々深き此の日天も全く澄渡つて雄々し、磐中建兒數百の血を躍らせたマラソン決勝は次の如くである

△一等五年丙西山照タイム四十五分十八秒△二等五年一組柏原正一タイム四十六分二十六秒△三等二年一組齊藤利良タイム　も終り原案は同會の手を離れて町土木委員會の手に移

平驛先月の乘降客一萬の增加

小荷物扱も激增

川前の紅葉狩る人々で平驛の昨今は川前の紅葉狩樓上で開いてゐたが今月は講師栗山老師の都合により休會のことになつた

る人々で大混雜を呈して居

るが十月中の同驛乘車人員は九萬四千八十人、降車人員九萬九百九十一人である而して之れを九月　統計乘車人員八萬千七百八十人降車人員七萬八千九百六人に比し乘降共約一萬の增加である。尚同驛十月中取扱手荷物發送は千四百二個　到着數千八百七十個であるが小荷物は發送五千五百六十個、到着八千二百八十八個で收入合計一萬八千九十九圓九錢、昨年度十月中收入合計二萬七千二百九十四圓二十五錢に比し約千圓の收入高を見て居る

郡教育部會總會

昨六日平第一小學校で

議事と視察講演

石城郡教育部會秋季總集會は六日午前九時十分より平町第一小學校に於て左の順序により開催されたが出席者は五百餘名に達し頗る盛況を極めた、伏見郡會長議長席に着き左の件を附議した

一、本部會春季總集會場復活の件（會場持廻廢止）

會員依田市郎氏外四名提出にて替否兩論に分れ否決

一、歩兵二十九聯隊海外派遣兵慰問の件可決

一、石城郡下小學校の教職にある會員は會費として各自その俸給の幾分を本部に納付すること（篠原安保外八十名提出）反對者もあつたが三分の一を標準として一年一回に納付することに決しその方法は部會幹事に一任することに決す

△順　序

一、開會

一、勅語奉讀

一、報告（東部聯合教育會第二總會）

一、議事

一、道視察員報告北海道視察員報告

一、講演

教育刷新　縣視學菅野健

一、會員演說

一、表彰式

同郡泉村々長中村宜明氏教育功勞者として銀盃一個をうく

一、晩食

一、講演

學級經營に就いて

東京師範學校教諭　北澤　爲一

委員會の手に移った町役場新築案

あす委員會を開いて具体案を審議

平町多年の懸案たる町役場の改築問題は今年當初から町明八十午前十時から土木委員會の手に於いて慎重員會を臨時召集調査會の調査を結げられて來たが愈愈にもどづいて新築廳舍の三年二組柏原正一タイム四十六分二十六秒△三等々新築に關する具体的調査設計に關する協議を爲す

二年一組齊藤利良タイム

平町多年の懸案たる町役場

改築問題は今年當初から

是調査會の手に於いて慎重員會を臨時召集調査會の調

三年二組柏原正一タイム

四十六分二十六秒△三等々新築に關する具体的調査

設計に關する協議を爲す

二年一組齊藤利良タイム

も終り原案は同會の手を離

れて町土木委員會の手に移

期待してゐた町役場の新築

案となつたので平町では

ぬ、大恩人は何と申しても

であります、這般の活

伊東本縣知事であります。

本縣知事四月赴任したの

は本年四月赴任したの

じありますが、小名濱商港

現に就は殆と寢食を忘れ

者として平町役場の保護を

受けて居たが昨六日官兄艶

次郎は態々郷里から引取り

に來たので引渡し知人の好

間炭礦へ行くべく兄弟二人

連れ立つて行つたが途中好

間村關の上にて兄艶次郎が

便氣を催したので懷中時計

前後十數回に亘り胡鼠泥を

働き昨年春頃から馴染を重

ねてゐる柴樓の娼妓梅幸ら

入れ上げてゐたものである

事を自白したが證光は豫ね

て窃盗事件で起訴猶豫中の

ものであると

馴染娼妓の爲め青年賊を働らく

飯野村の大和田義元

平署嚴重取調中

飯野村方面に去月中旬頃から頻々として胡鼠泥が横行し平署では犯人逮捕に努めてゐたが昨六日午後十一時頃猪狩刑事が鎌田遊廓附近を密行中柴樓に登樓せんとした挙動不審な男を發見本署に引致嚴重取調べたところ此奴は飯野村大字上高久字片岡農業大和田義光（三）と稱し近所の鈴木一男宅から銀側懐中時計一個代約十圓、窃取したのを手始めにより四班に分れ縣議の戸

豫算審議の際る引き縣會

無事通過を計る可く去る五

別訪問運動中の旨既報した

が明八日頃歸濱す筈である

運動

町議歸町

あす小名濱へ

小名濱町會議員一同は商港豫算審議の際る引き縣會無事通過を計る可く去る五日午前十時から土木委員會の手に於いて慎重員會を臨時召集調査會の調査を結げられて來たが愈愈にもどづいて新築廳舍の三年二組柏原正一タイム四十六分二十六秒△三等々新築に關する具体的調査設計に關する協議を爲す

二年一組齊藤利良タイム

も終り原案は同會の手を離

れて町土木委員會の手に移

期待してゐた町役場の新築

案となつたので平町では

ぬ、大恩人は何と申しても

であります、這般の活

伊東本縣知事であります。

本縣知事四月赴任したの

は本年四月赴任したの

じありますが、小名濱商港

現に就は殆と寢食を忘れ

者として平町役場の保護を

受けて居たが昨六日官兄艶

次郎は態々郷里から引取り

に來たので引渡し知人の好

間炭礦へ行くべく兄弟二人

連れ立つて行つたが途中好

間村關の上にて兄艶次郎が

便氣を催したので懷中時計

前後十數回に亘り胡鼠泥を

働き昨年春頃から馴染を重

ねてゐる柴樓の娼妓梅幸ら

入れ上げてゐたものである

事を自白したが證光は豫ね

て窃盗事件で起訴猶豫中の

ものであると

小名濱商港實現（上）

祝賀會席上演說要旨

小名濱　小野生

◎古語に國危くして忠臣か當町の現在と致しましてはなれ、家貧うして孝子現各方面に行き詰りを生じてはると云ふ事がありますが居る點から眺めまして、實これ或は小名濱町現在の爲に容易ならざる大問題であめに設けられた金言ではなりません。

◎然らば云ふて、その吾小名濱町は漁港の完成或行きの儘に放置して仕舞は見ましたけれ共、之を活ふ譯けには參らぬのであり用する爲めには前途幾多あります、乘るか反るか行く處努力をなさねばなりませんまで行かねばならぬと云ふそして更一起つた、平小鐵一大事の瀬戸際であるので道、商港の兩問題等實に迫あります、行く處まで行く迎に遑かない程であります

ぬと云ふ覺悟は何と悲痛な將

た、壯烈な言葉でないでせ

うか、この覺悟ればこそ

初めて今日茲に町民各位と

一堂に會し、祝賀の宴を張

る事になつたのであると考

へます時に、實に豪快に堪

へない感に打たれるのであります。

◎斯くも本町をして乾坤一擲の危急から救ふと云ふねばなりません。馬上氏諸君の御承知の如く學殖豊かにして人格的閃きの强い人傑でありますは申すまでもありませんが、一教育者として、敬意を表しつゝ

か忘れる事の出來ない四五

の大人物が此際諸君に御照

介申上げて是非御記憶に留

めて措いて欲しいと考ふる

ものであります。

◎第一に馬上孝太郎氏

◎先づ第一に指を折るべき大人物としては、何と申しても馬上孝太郎氏を擧げなければなりません。馬上氏忘れ事の出來ない處で

ます　小野前縣議の如き

小線をして、寧ろ馬上線

急務なる事を力說されまし

た事は、吾々町民

の交渉、更に田中總理大臣や、小川鐵道大臣の東北巡視の際しての、歡迎の辭

中には小名濱商港の修築

茲に到らしめた所謂のもの

は、內外相呼應した、一貫

の首領があつて忠臣たり孝

子たの人物があつたからで

あつたのに過ぎません、隨

つて沒交渉たる處の政事方

面に有力なる交渉のあつた

人々は、想像されなかつた

でありますが、這般の活

躍されました事々物々に就

て見ましても、實に驚嘆す

き事實があるのであります

即ち馬上氏に依つて兩

題　解決し多大の力を與

られた事は、吾々町民

忘れ事の出來ない處で

ます　小野前縣議の如き

小線をして、寧ろ馬上線

急務なる事を力說されまし

たとするのか至當たとまで賞

て、縣民の多くは小名濱の

努力をなさねばなりませんまで行かねばならぬと云ふ

そして更一起つた、平小鐵一大事の瀬戸際であるので

道、商港の兩問題等實に迫

あります、行く處まで行く

迎に遑かない程であります

◎第二に申上げねばならぬ、大恩人は何と申しても

であります、這般の活

伊東本縣知事であります。

本縣知事四月赴任したの

は本年四月赴任したの

じありますが、小名濱商港

現に就は殆と寢食を忘れ

者として平町役場の保護を

受けて居たが昨六日官兄艶

次郎は態々郷里から引取り

に來たので引渡し知人の好

間炭礦へ行くべく兄弟二人

連れ立つて行つたが途中好

間村關の上にて兄艶次郎が

便氣を催したので懷中時計

前後十數回に亘り胡鼠泥を

働き昨年春頃から馴染を重

ねてゐる柴樓の娼妓梅幸ら

入れ上げてゐたものである

事を自白したが證光は豫ね

て窃盗事件で起訴猶豫中の

ものであると

惣一わりや酷い

肉身の兄弟なればこそ

艶兄イの嘆き

石川郡小鹽井村大字鹽出字宮田艶次郎弟安藤惣一（三四）は去月二十七日より行旅病人として平町役場の保護を受けて居たが昨六日官兄艶次郎に來たので引渡し知人の好間炭礦へ行くべく兄弟二人連れ立つて行つたが途中好間村關の上にて兄艶次郎が便氣を催したので懷中時計を惣一に預け便所に入つたところ、その間に惣一は兄の隙をうかがへ懷中時計を持つたまま逃走したので兄艶次郎に六日右の旨平署に訴へ出たが樂すればこそ山川越いて向へに來た兄を出斯ふだと話せばどうにもしてやるものをと兄艶次郎は弟の行衛を案じ思つてゐる惣一たるもの早く故郷に歸つて安心させたがよかる可し

電話

至急買ひたし希望の方は申出で下さい

姓名在社

三越大盛況

通信販賣申込多し

東京三越呉服店出張販賣は既報の如く五、六の兩日平町住吉屋本店に於て行つたが流石に三越の看板は顧客を吸引するに充分なものあり殊に通信販賣の申込みや洋服仕立別誂ひが非常に多く幾想以上の盛況だつたので明春は設備を更に整ね出張の手筈で顧客の方でも期待してゐる

平町の物價

十月末現在調べ

平町十月末日の日用品小賣相場は白米一升一等三十七錢、二等三十六錢、三等三十五錢で白麥は十八錢、平麥十六錢で醤油は並一升六十錢、味噌一貫目は並八十錢で木炭類は檜丸一貫目三十七錢、檜割二十九錢、雜木三十二錢である、砂糖は白百目十八錢、赤十四錢、黑十錢であるが肉類は豚上等六十錢並が五十錢牛が上等七十錢、並が五十錢であるが本月の下白米相場は一石三十四圓である

喫煙室

この程の夜平町に開かれた道路愛護活動寫眞會映畫面に吉野と云ふ劇の主人公が現れ村の架橋工事に反對を唱へ遂に自ら悲慘な運命に陷る場面があつた事でこそやつと治まつたものゝ平町幹線道路貫通工事に當時反對を唱へたのも同じ姓の吉野某　そこで二千觀客の前で吉野を連發するは苛酷に過ぎると平町役場吏員そつと辯士に談じ當夜に限り吉野を慾野と直して貰つたが少々痛し

謹んで御禮申上候
御地に出張販賣仕候際は多大の御引立を蒙り厚く御禮申上候
東京　三越呉服店

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします、た遊びがてら御出で下さい
平町五丁目（釜屋横町）
須藤まつの

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント株式會社特約代理店
磐城平町五丁目
和洋銅鐵金物問屋　釜屋商店
電話九番　一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり
諸橋久太郎

營業目種
内地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負其他
佐藤材木店
常磐線平町　紺川町
電話三三五番

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士敬白
大谷時計病院
電話一九番

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

平館隣り
御料理
鰻蒲燒
仕出し
魚榮
電話四二四番